

あなたのチームは優勝出来るか！

その1

いかにして杉野は強くなったか

杉野女大コーチ 榎本日出夫

ある日、突然に杉野をコーチするようになってから正直いってこれ程早く成果が出てくるとは思いもよらなかった。というのは、私自身の考えているバスケットを、半年位の短期間にどの程度しんとうさせられるかが、疑問だったからであり、まして、前に一度もコーチをした経験がなく、その上相手が女の子であるということからである。

そんな気持ちの定まらないままの私を、初対面で「やってやろう」という気持ちにさせたのは、他でもなく、彼女達の「やる気」が外にも内にも強く出ていたからだだと記憶している。日く「2年間は他のことを犠牲にしてもバスケットをやってみない」

女性というものに対して抱いていた、スポーツに関するふっきれない何かを、この言葉ですっかり流したような気になりました。体育系大学ならばいざ知らず、服飾の学校にいる女の子がこの気持ちをもっているのならば——というのが私がコーチを引き受けた最大の理由です。

こんな気持ちの流れがあって、さてどんなチームにしたらいのか？、その為の練習計画は？、と考え出し、他のチームはどんなことをやっているのか、皆目見当もつかず、又知るすべもない自分に気がついた。幸い、関東実業団リーグ戦がはじまっていたので、時間を都合してなるべく多くのゲームを見ることに専念し、又畑先生や、日立本社の小川氏

にいろいろアドバイスをうけて、短時間で今のバスケット界の流れをつかもうとしました。そして、つかみ得たことは、我々が昔プレイしていた時と考え方は、たいして変化していないということでした。しかし、特に強く感じたのは、きめのこまかいバスケットは影をひそめ、「力」のバスケットが全勢であるということでした。

これらのことを杉野と比べてみると、体力、バスケットに対するセンス、練習時間、どれをとっても劣るということでした。そしてそれらを克服して、他チームと互格に戦う為には、どんな方法が一番賢明なのか、同じこと、同じ考え方でやればとにかく敗戦は明確であり、コーチをする意味もない。その為には、他のチームが練習していない習得していない何かをとらえ、それらを取り出し組立てて練習し習得させれば、かなりのところまでいけるのではないかと考えました。その為には、なるべく多くのチームと練習試合をして、選手にも身をもってそれらのプレイを感じてもらい、具体的に説明をしようと思いました。しかし短期間ではなかなか意志の疏通がままならず、誤解も生じてきて、チーム内の空気も悪くなるばかりでした。

そこで考えたのがレポートを書いてもらおうということでした。これは、面と向って云えないことも紙面を通してだとかかなりスムーズに表現できるのではないかと考えたからです。

たしかにこれは成功で、一人一人が何を悩みどこで私と意見がちがっているか、そしてどんなことを考えてバスケットをやっているかがよくわかりました。その結果、選手の状態を十分に把握できたと共に、彼女達もただ漫然とバスケットをやるのではなく、一人一人が自分のこと、他人のこと、チーム全体のことを考えてプレイをするようになりチーム全体に「和」というものが出てきました。

しかし、これでは一方通行になる恐れがあるので、私の方からも彼女達に「今、君のバスケットに対する能力はこれ位です」「こんなことを注意して練習をすればそれは直ります」などというようなことを書いた通信簿的なものを作り、渡しました。

これは、パス、ドリブル、シュート、フォロー、ディフェンス等の能力を23項目にわけて点をつけ、そのあとに注意事項を書き、少しでも自分の能力を知り、その能力をもっと上にまでもっていく為には、こんなことに注意して練習をすれば良いんだな、という一つの参考資料的な意

